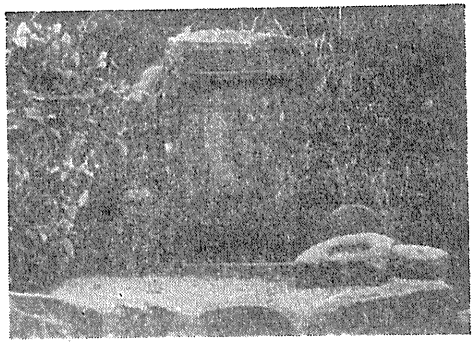
五　海南町の災害

(1)　保瀬の大崩壊

明治二十五年（一八九二）七月二十五日数日前から降り続いた豪雨のために海部川は増水し氾濫した。そして

午前十時頃、川上村大字平井保瀬の右岸山上が大崩壊をした。山の土砂が海部川を堰とめ、折からの洪水は逆流し、寒ケ瀬一帯は濁流におそわれた。この大崩壊のために、埋没されたもの四戸、上流にあって洪水のため流失したもの八戸、死者四十七名を出し、被害惨たんたるものであった。この災害は有名な下木頭村大戸の崩壊と共に徳島県下の山岳崩壊中特筆すべきものである。

（海部郡誌より）



保瀬崩壊記念碑

(2) 南海大地震と津波

浅川村は、V字湾にのぞみ、観音堂内にある地蔵尊台石銘文に残る宝永四年の大地震と津波の大被害、千光寺額面記録に残る嘉永七年の大地震、大津波等の歴史の示すごとく往古より幾回もの災害にさらされてきた村である。

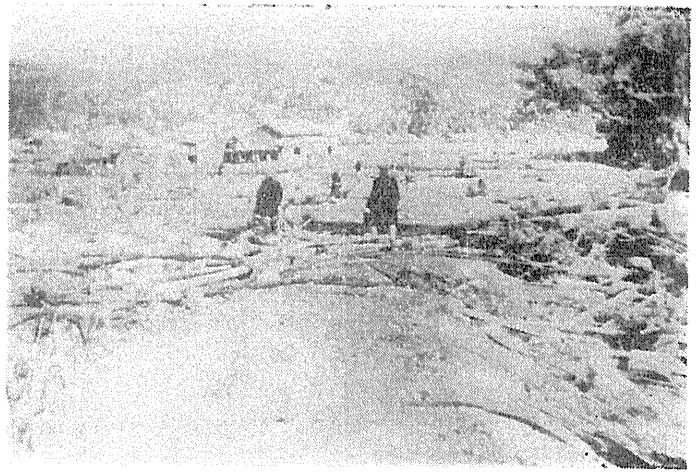
昭和二十一年十二月二十一日午前四時におきた南海大地震は、過去浅川村を襲った地震の中でも最大のものであった。

この詳細は昭和三十二年浅川村震災誌編集委員会が発行した「南海大地震浅川村震災誌」を参照されたい。

また津波の高さは天神社の石垣に示されている。

大地震発生状況

午前四時十九分大地震、十分余の後に津波襲来、大波三回



南海大地震の津波の災害を受けた浅川村
（昭21.12.22　撮影）

南海地震の大津波で千光寺に避難した子どもたち，川東国民学校の湯浅校長が餅を持参して見舞っているところ

被害状況

死者八十五人、流失家屋一八五軒、全壊一六一戸、半壊一六九戸、船舶流失八〇隻、

浅川村受付見舞金　六二、七三〇円　（米価一石二六五円）

全国義捐金　八六二、一六五円

日本赤十字社　一〇九、九二五円

本県同胞援護会　一九、七五〇円

救恤金（国庫支出）　七、六八〇円

救恤金（国庫支出）　一〇四八、二〇二円

救恤現品給与　一七一、二三三円　以上